

全国高校
ラグビー

道(広島)なども2回戦に駒を進めた。初出場校は専大玉名(熊本)が勝ったが、読谷(沖縄)は敗れた。30日は2回戦を実施し、3連覇を狙う桐蔭学園(神奈川)や選抜大会を制した東福岡などシード校が登場する。

(鎌田秀平)

秋田工は先制したものの、粘り強く押し込んで、試合をその後はFW戦で圧力に屈し、逆転負けした。

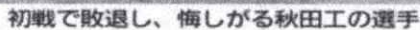
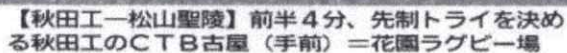
前半4分、秋田は敵陣に入ると、鋭く縦に切り込んでCTB古屋がインゴールに飛び込み先制トライ。しかし風下の後半、細かミスからピンチを招いて逆転を許した。ラインアウトモールから一度は追い付いたが、再び自陣で相手FWの連続攻撃を止められず、勝ち越された。

松山聖陵はFWが最後まで

松藤木 諒屬 豐琢田 藤森園生南
 藤庭浦 木
 若加松佐小松三佐柴鈴金土稻菅松
 秋田工
 松山聖
 FW
 HB
 TB
 FB
 水坂日門 藤上門 尺本井泉

垂保井
東小高久種川伊井原中龜高米吉
▽交代【松】今藤（川口）川口（今
藤）【秋】三浦涼（若松）

ノーサイドの笛が鳴ると、秋田工の選手はほうぜんと立ち尽くした。FW戦で劣勢となり、速い球出しを封じられた。持ち味としてきた連続攻撃を発揮できず初戦敗退。8強入りを目標に乗り込んだ大舞台の花圖で、思うようなプレーができないうちに、大会の終わりを迎えた。



イルをつないで攻め込み、
パワフルなCTB古厩健太
朗(3年)の突破で先制ト
ライを決めた。だが、SH

柴田龍成主将(同)は「チームはさすがと緊張していた」と振り返る。

その後、思うようにボールがつかずになかった。ハンドリングミスもあれば、相手守備のサポートの速さ

にボールを奪われて反則を犯す場面もあった。風上の上前半で得点を重ねたかったが、再三の好機をものにできなかった。

7点のリードで折り返した風下の後半。相手は効果

運かった。伊東良吾監督は「前半に得点を取り切れず、きつい展開になった」と語った。途中交代も含め出場した16人のうち、半数の8人は2年生。柴田主将は「後輩にはこんな悔しい思いを

的に陣地を奪うと、FWが
圧力を高めた。3分、7分
と立て続けにトライを奪
い逆転を許した。ラインア
ウトからのモールを押し込
んで追い付いたが、最後は
再び相手FWの連続攻撃に
押し切られ、勝ち越された。
最終盤にボールがリズム
よくつなぐたが、反撃が

©秋田魁新報社

連続攻撃封じられる

から接点の激しさを磨き、
来年はトライへの執念を発
揮してほしい」と託した。